

テストWG ポジションペーパー

安達 賢二
株式会社 HBA
adachi@hba.co.jp

1. 自己紹介

北海道中川郡美深町(稚内から南に 60Km ほど)生まれ、小中高は函館で、大学だけ東京で過ごしました。この業界に入ってから主にエンタープライズ系のシステム運用・保守から開発プロジェクト、そして組織内の問題解決や改善対応など多くの領域に係わってきました。

開発・運用・保守業務の担当者や管理者、そしてシステムの利用者などそれぞれの立場で”システムのゆりかごから墓場まで”を見ることができたのは私にとって貴重な経験です。

現在は社内外を問わずこれらの業務運営や携わる技術者・管理者などの状況を把握し、次に何が必要なのか、どうしたらもっと楽しく、やりがいを持って成果を上げることができるのかを実務者のみなさんと一緒に考え、行動していくお手伝い役をしています。

2. 札幌というロケーションの特徴

札幌は政令指定都市ですが、普段開発関連のイベント(シンポジウム、研修、セミナー)があまりありません。今年ソフトウェアシンポジウム2009が札幌で開催されると聞き、大変うれしく思っております。一方で参加者が少ない現状には閉口しています。

3. 討論したい内容

(1) 普段のプロジェクト(のテスト)で悩みが多いもの一つに、進捗遅延、多発する変更要求などのしわ寄せが影響して計画通りの(本来必要な)テストが行えない局面で、何のテストをどこまで実施していくべきかを決めて対応しなければならぬ、というものがあると思います。

このことを検討し、決定していく過程で、どのような情報を抛り所にして、どのように決めるのが適切なのか、その時の前提条件は何か、注意すべき事項は何か

のか、等を議論してみたいです。

→リスクベーステストなどを視野に入れての話です。

(もちろんそれに限りません)

(2) 「網羅とピンポイントの両面を兼ね備えた”本来必要なテスト”とはどんなものか/それはどのように導き出すのがよいのか」についても議論してみたいです。

「すべてのことをテスト出来ないんだから」までは誰しもが言うのですが、「(そうなのだから)どこを、どの程度テストするのがよいのかを、根拠に基づき導き出す」のではなく「(そうなのだから)思いついたところをやればよい/期日が来るまで一生懸命やればよい」的なテストを実施している現場も多いです。

そういう現場に「テストは網羅とピンポイントが大事だ」と言っても解決にはなりません。

簡単な話ではありませんが、ソフトウェアの品質保証の観点から「本来必要なテストを導き出すための具体的な段取りやノウハウ」を議論して、その結果が、「(そうなのだから)思いついたところをやればよい/期日が来るまで一生懸命やればよい」としか考えられない実務の現場に、「そういうことなんだ!」と納得して、思考と行動を変えるきっかけになってもらいたいと思います。

4. WSIに期待すること

めったにない機会ですので、同じドメインに精通されているみなさんと意見交換や議論ができること、そして新しい考え方、自分にはない思考、ノウハウを獲得できるとうれしいなと思っています。

よろしくおねがいします。